

主催者挨拶

名古屋大学農学国際教育協力研究センター長
山内 章

皆さん、おはようございます。主催者を代表いたしまして一言ご挨拶をさせていただきます。

今、杉山先生からご紹介がございましたように、当初は10月の8日・9日ということで計画をさせていただいておりましたところ、台風18号の直撃を受けまして、本日まで開催を延期せざるを得ませんでした。2度の日程調整に快く応じていただきまして、本日開催できることになりました。関係の先生方、関係者の方々に、まずもって心よりお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。特に私たちのセンターの活動を常に全学的にサポートしていただいております名古屋大学から杉山先生、それから文科省、日本学術振興会、農林水産省、JST（科学技術振興機構）、JICA、JIRCASの関係各位、それから本日基調講演をいただきますJ-FARDの東先生をはじめとします講演者の皆さま方、参加者の皆さま方、お忙しいところを、時間を割いて本日のフォーラムにご参加いただきまして、どうもありがとうございます。

私たちのセンターは、これも先ほど杉山先生の方からご紹介がございましたが、1999年に設立されて10年目を迎えます。文科省のご指導をいただきまして、農学分野における人材養成に関するナショナルセンターとして機能することを目的に、名古屋大学に設置されたわけであります。

こういった教育協力を担当しております研究センターは、全国に七つ配置されております。医学関係では東大、教育関係では広島大、筑波大、鳴門教育大、愛知県には、今日もご出席いただいております工学関係の豊橋技術科学大学、それから名古屋大学には法学と農学関係のセンターが設置されているわけです。私たちはその設立の経緯と使命に基づきまして、さまざまな大学あるいは国際協力機関との連携を強める活動を行ってきまして、本フォーラムもその活動の一環です。

このフォーラムは、2年前から準備をしておりまして、一昨年に行いました第8回フォーラムでは、大学と国際協力機関との組織連携の強化をテーマにしました。その際に、個々の大学では非常に優れた取り組みが実施されているが、あくまでも個々の大学、あるいは個人の教員の情熱、努力によって国際協力が推進されているという実態が明らかになりました。従って、これらの取り組みを日本全体に広げ、組織の力として結集していくことが非常に重要であるということ、第8回のフォーラムで学びました。

それを解決するために、私たちは昨年の第9回のフォーラムで、この農学知的支援ネットワークの構築を呼びかけました。その後で、関心のある、あるいは賛同してくださる、いろいろな機関などからご協力を得まして、さらには文科省、JICA、JIRCAS等々の責任者の方にお集まりいただきまして、第9回のフォーラムを行いました。その後、いろいろな関係各省庁、文科、農水、JIRCAS、JICA等々からアドバイザーとしてお集まりいただきまして、準備委員会を立ち上げて、ネットワークの構築に向けた準備を本日までしてきたわけでございます。

大学は本来、教育、人材養成が最も得意です。私たちの自らのオリジナルな研究に基づ

いて行う教育が大学の本来の使命ですから、教育協力の分野で、これから大学が一層効率的に国際協力事業へ参画し得るために、このネットワークをメンバーの方々がどう使っていくのか、どのような積極的な意思でこのネットワークに参加していただけるかということが、このネットワークの成否を握っていると思います。

今日のフォーラムで率直な意見を交換していただきまして、今後のあるべき方向について実質的な議論が展開されるということであれば、主催者としては望外の喜びであります。本日はお集まりいただきまして、ありがとうございました。また熱心な議論をよろしくお願いたします。これで主催者の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。